

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	整形外科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	整形外科学Ⅱ
担当講師	高橋 欣吾・平中 孝明
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 医師 》
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節 2. 肘関節 3. 手関節及び手指 4. 股関節 5. 膝関節 6. 足関節 7. 骨折総論（救命救急を含む） 8. 骨折外傷各論（1） 9. 骨折外傷各論（2） 10. 末梢神経 11. 脊髄損傷 12. スポーツ障害 13. 手術方法について（1） 14. 手術方法について（2） 15. 定期試験
テキスト 参考書	標準整形外科学
評価の方法	試験結果による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合あり)

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	運動学演習Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学演習Ⅱ
担当講師	橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標 運動学を実践的に(再)学習することで運動学を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関節の正常な構造と機能を説明できる ・実習で得られた結果を、運動学的に解釈できる ・身体運動・動作の特徴や仕組みを説明できる ・計測手法を用いて測定できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の評価（実習） ・肩甲帯・肩（実習） ・手関節・手指（実習） ・随意運動の発現および姿勢・動作のメカニズム ・骨盤帯・股関節 ・膝・下腿 ・足関節・足部（実習） ・運動連鎖 ・歩行（実習）
テキスト 参考書	<p>基礎運動学 第6版：医歯薬出版株式会社</p> <p>その他：適宜必要文献</p>
評価の方法	<p>レポート</p> <p>筆記試験</p>
受講上の注意	座学・実技形式（Webにて実施する場合あり）

理学・作業療法学科2年

授業科目名	神経内科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経内科学Ⅱ
担当講師	田村 優加子 傳 秋光
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 医師 》
授業の目的	神経疾患各論について理解する
授業の概要	<p>田村先生担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害 2. 認知症 3. 脳腫瘍 4. 外傷性脳損傷 5. 脊髄疾患 6. 変性疾患(錐体外路系を除く)脱髄疾患 7. 錐体外路系の変性疾患 8. 末梢神経障害 9. てんかん・筋疾患 10. 感染性疾患・中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患筋疾患 11. 小児神経疾患 12. 廃用症候群と誤用症候群、合併症 13. 排尿障害 14. 性機能障害 <p>医用画像：傳先生担当(2回)</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 基礎専門分野 「神経内科学」 病気がみえる 脳・神経 第2版
評価の方法	定期試験による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合もある)

理学療法・作業療法学科2年

授業科目名	精神医学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学 I						
担当講師	塚原健司						
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 精神保健福祉士・公認心理士 》						
授業の目的	・ OT・PT として業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。						
授業の概要	<p>1 オリエンテーション・治療的な関わりとは</p> <p>2 ICF とは・ICD-10 と DSM-V</p> <p>3 脳科学</p> <p>4 認知症 I</p> <p>5 認知症 II</p> <p>6 依存症 I</p> <p>7 依存症 II</p> <p>8 依存症 III</p> <p>9 統合失調症 I</p> <p>10 統合失調症 II</p> <p>11 統合失調症 III</p> <p>12 摂食障害</p> <p>13 予備日</p> <p>14 期末テスト対策</p> <p>15 期末テスト</p> <p>・学習の進度や状況によって変更することもあります。</p> <p>・適時 DVD や事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。</p>						
テキスト 参考書	精神神経疾患ビジュアルブック 落合慈之監修 学研プラス 臨床につながる精神医学 渡辺雅幸 医歯薬出版						
評価の方法	<table> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td>50%</td> </tr> </table>	授業態度	20%	レポート	30%	期末テスト	50%
授業態度	20%						
レポート	30%						
期末テスト	50%						
授業の形式 受講上の注意	<p>・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。</p> <p>・Web にて講義を行う場合もあります。</p>						

理学療法・作業療法学科 2年

授業科目名	薬理学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	薬理学
担当講師	小西恭子
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 《 薬剤師 》
授業の目的	リハビリテーションを安全に行うために、薬剤の影響は避けられません。薬剤の影響を知るためには薬理学を学ぶ必要があります。薬理学を学び薬の主作用・副作用を理解し、副作用を早期発見し、安全にリハビリテーションを進めていけるようになりましょう。また、チーム医療の一員となり多職種連携の中でリハ職として薬剤に関して意見交換できるようになりましょう。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 薬理学の基礎知識①第1～2章 ② 薬理学の基礎知識②第3～4章 ③ 薬理学の基礎知識③第5～6章 ④ 演習①添付文書を使って身近な薬を調べてみよう ⑤ 臨床薬理学の基礎知識 ⑥ 感染・炎症の制御と薬物療法 ⑦ 神経疾患の薬物療法 ⑧ 演習②お薬手帳を見てみよう ⑨ 精神疾患の薬物療法 ⑩ 薬剤師の仕事（薬剤師を知る） ⑪ 循環器系疾患の薬物療法 ⑫ 演習③患者さんはどんなことで困るか考えてみよう ⑬ 疼痛の制御と薬物療法 ⑭ 注意すべき頻用される薬物 ⑮ 演習④事例検討～副作用の早期発見～
テキスト参考書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 内山靖、藤井浩美、立石雅子編 2020 医師薬出版株式会社
評価の方法	講義後の小テストで行う。 合計が60点以上を合格とする
授業の形式 受講上の注意	基本は講義形式で行う（Webにて実施する場合があります）

理学療法学科 2 年

授業科目名	骨関節疾患系 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2 単位 60 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	骨関節疾患系 I
担当講師	橋本 宜昭、中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各疾患の病態を理解し、医師の診断・処方を正確に理解する能力を身につける 処方箋の情報から検査を実施し、理学療法を展開できる能力を身につける 整形外科的検査を学習し、検査で組織に加えるストレスを解剖学・運動学で学んだ知識と関連付けて理解する。 <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各疾患について概要を説明できる 各疾患の病態を説明できる 疾患に必要な評価を列挙できる 評価から考えられる問題点を把握し、適切な運動療法を説明できる 整形外科的検査を実施できる。
授業の概要	<p>1 単位分 整形外科的検査を中心に実施する</p> <p>1 単位分 (座学)</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織の再生・修復について 骨折について (大腿骨頸部/転子部骨折 (人工骨頭置換術など)) 変形性股・膝関節症 (人工関節全置換術など) について 腰部疾患 (腰椎椎間板ヘルニア、椎体圧迫骨折など) について 肩の疾患 (肩関節周囲炎、腱板損傷など) について 靭帯損傷・半月板損傷について 足関節、足部の障害について
テキスト 参考書	<p>レクチャーシリーズ第 2 版理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I・II</p> <p>標準整形外科学：医学書院</p> <p>その他適宜必要文献</p>
評価の方法	<p>提出物と筆記試験</p> <p>実技テスト</p>
授業の形式 受講上の注意	座学・実技形式 (Web にて実施する場合あり)

理学療法学科 2 年

授業科目名	神経障害系 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2 単位 60 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経障害系 I
担当講師	小林 憲人
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	脳血管に起因する中枢神経障害がもたらす運動障害に関する知識を基に、それに対する理学療法の理論と技術を習得する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① CVA 基礎知識 1 脳血管障害とは ② CVA 基礎知識 2 脳血管障害の理解と基礎知識 ③ CVA 基礎知識 3 脳血管障害の理解と基礎知識 ④ CVA 基礎知識 4 脳血管障害の理解と基礎知識 ⑤ CVA 評価 1 脳損傷の回復過程 ⑥ CVA 評価 2 脳損傷の回復過程 ⑦ CVA 評価 3 急性期リハビリテーション ⑧ CVA 評価 4 回復期リハビリテーション ⑨ CVA 評価 5 維持期リハビリテーション ⑩ CVA 評価 6 リハビリ総括 ⑪ 事例検討 CVA の評価 ⑫ 事例検討 CVA の評価 ⑬ 事例検討 評価からの治療 ⑭ 事例検討 評価からの治療 ⑮ 筆記試験
テキスト 参考書	脳卒中 医歯薬出版 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂
評価の方法	筆記試験 小テスト
授業の形式 受講上の注意	座学形式・実技形式 (Web にて実施する場合あり)

理学療法学科 2年

授業科目名	基礎運動療法 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	基礎運動療法 I
担当講師	藤村忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	理学療法の根幹をなす運動療法について、それに関する基礎知識と基本的な考え方を学ぶ。
授業の概要	<p><u>講義の概略構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動療法の歴史 ・ 運動療法とは何か ・ 関節の構造と運動 ・ 筋と筋収縮 ・ 随意運動と運動制御モデル ・ 運動制御と運動学習 ・ 関節可動域運動（狭義） <p><u>講義の進め方</u></p> <p>テキストに沿って進める。実際の臨床現場で実施されている運動療法のメカニズムを理解させる。適宜、参考資料を配布する。</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学 運動療法総論 第4版 医学書院 適宜必要文献
評価の方法	筆記試験の点数を基準として評価する。
授業の形式 受講上の注意	講義は座学にて実施。 (Webにて実施する場合があります)

授業科目名	生活環境論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生活環境論	
担当講師	藤村忠史 小林憲人 國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士(藤村・小林)、作業療法士(國近) 》	
授業の目的	<p>①高齢者や障害者を取り巻く社会の状況や支援の仕組みを理解する。</p> <p>②障害の捉え方と自立支援について理解する。</p> <p>③疾患・障害別にみた福祉住環境整備の考え方を理解する。</p>	
授業の概要	第 1-10 回 担当 藤村 忠史	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者を取り巻く社会状況 ・障害のとらえ方と自立支援のあり方 <p><到達目標></p> <p>①医療保険制度と介護保険制度を理解し説明することができる。</p> <p>②地域包括ケアシステムと地域リハビリテーションについて理解し説明できる。</p>
	第 11-20 回 担当 國近 敏伸	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方 ・相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 <p><到達目標></p> <p>①疾患や障害の例を挙げ、それらに対する福祉用具の選定や、住環境整備のポイントを説明することができる。</p> <p>②住環境整備に伴う、関連職との連携やアセスメントの流れについて説明できる。</p>
	第 21-30 回 担当 小林 憲人	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識 ・在宅生活における福祉用具の活用 <p><到達目標></p> <p>①生活行為別にみた代表的な福祉用具について説明できる</p> <p>②基礎的な建築図面の読み方や、実践に必要な知識身に付ける。</p>
	第 30 回	福祉住環境コーディネーター級 2 検定試験
テキスト 参考書	改訂版福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト改訂6版 福祉住環境コーディネーター検定試験2級問題集(未定) 配布資料・準備資料	
評価の方法	検定試験の結果(60点未満)はレポートで合格 2級検定試験合格基準(70点以上) 試験期間2022年7月22日(金)～8月8日(月)	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワークなど	

授業科目名	日常生活活動Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動Ⅱ
担当講師	小林 憲人・中村 めぐみ・橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	日常生活Ⅰで学んだ日常生活活動に関する全般的な基本知識をもとに、日常生活Ⅱでは疾患をベースとして、各対象者のADL能力やその状態を専用の評価尺度を用いて精度良く捉え、その上で各対象者の特性に合致した適正なアプローチが可能となるよう、その基本を学ぶ。
授業の概要	<p>授業の概略構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片麻痺、パーキンソン病などの中枢神経・神経筋疾患 ・ 呼吸障害、循環障害 ・ 切断・関節リウマチなどの骨・関節障害 ・ 認知症などの老年期障害 ・ 糖尿病、ストマ・血友病、視・聴覚障害、コミュニケーション障害
テキスト 参考書	理学療法テキストⅤ 日常生活活動(ADL) 第2版 神陵文庫
評価の方法	筆記試験 実技練習
授業の形式 受講上の注意	講義及び試験(最終日)は教室で行います。 実習は治療室を中心に行います。 Webにて実施する場合があります。

理学療法学科2年

授業科目名	義肢装具学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	義肢装具学 I
担当講師	福本 絢哉
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 義肢装具士 》
授業の目的	義肢学の基礎を学ぶ
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義肢装具の支給体制 ・ 義肢の分類 ・ 義肢の構成要素 ・ 切断原因、切断レベル ・ 義手 (肩、上腕、前腕、手部、手指、筋電義手) ・ 下腿義足 (ソケット、足継手・足部、アライメント) ・ 大腿義足 (ソケット、膝継手、アライメント) ・ 股義足、膝義足、足根義足
テキスト 参考書	PTOT ビジュアルテキスト 義肢装具学 高田治実 羊土社
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学形式 (Web にて実施する場合があります)

理学療法学科 2 年

授業科目名	検査・測定論Ⅳ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	検査・測定論Ⅳ
担当講師	森澤 文博
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 目で見た姿勢や動作を捉え、文字に起こす表現力を養う <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 解剖学的、運動学的用語を用いできるよ観察結果を表現できるようになる ➢ 各動作における理想的な重心移動を把握し、介助できるようになる
授業の概要	<p>1 総論</p> <p>1-1 解剖学的・運動学的用語について</p> <p>1-2 姿勢とは</p> <p>1-3 運動力学に関する知識</p> <p>1-4 姿勢の安定性と不安定性（動きやすさ）</p> <p>1-5 姿勢の記載と類型</p> <p>1-6 観察に必要なランドマークの触診</p> <p>2 姿勢観察</p> <p>2-1 臥位姿勢</p> <p>2-2 座位姿勢</p> <p>2-3 立位姿勢</p> <p>3 動作観察</p> <p>3-1 寝返り動作</p> <p>3-2 起き上がり動作</p> <p>3-3 立ち上がり動作</p> <p>4 介助方法</p> <p>4-1 寝返り動作介助</p> <p>4-2 起き上がり動作介助</p> <p>4-3 立ち上がり動作介助</p> <p>4-4 移乗動作（ベッド⇔車椅子）</p>
テキスト 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 動作のメカニズムがよく分かる 実践！動作分析：医歯薬出版株式会社 ➢ 基礎運動学：医歯薬出版株式会社 ➢ 適宜必要文献
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ➢ レポート課題 ➢ 小テスト ➢ 筆記試験 ➢ 実技試験
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 実技・座学形式 ➢ 実技の服装は実習着とする

理学療法学科 2年

授業科目名	検査・測定論Ⅲ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	検査・測定論Ⅲ
担当講師	中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p>方向目標 理学療法プロセスにおける評価の位置づけや各検査法の意義・目的を理解し、確かな技術を習得する。</p> <p>到達目標 各検査を実施する目的を説明できる。 各検査法を正確に実施することができる。 正確な検査結果を導き出すことができる。</p>
授業の概要	<p>各論</p> <p>①疼痛検査 ・疼痛の分類 ・疼痛の検査手順 ・疼痛の評価法 (VAS、NRS、FRS)</p> <p>②感覚検査 ・感覚・知覚とは ・感覚の分類 ・感覚検査の手順と器具 ・感覚検査の実際</p> <p>③反射検査 ・反射の反射弓、種類 ・深部腱反射 ・表在反射 ・病的反射</p> <p>④筋緊張検査 ・筋緊張の神経学的基礎 ・筋緊張の異常 ・筋緊張検査の実際</p> <p>⑤バランス検査 ・バランスとは ・バランス検査の実際</p>
テキスト 参考書	理学療法評価学 改定第6版 金原出版株式会社 その他適宜参考書
評価の方法	実技試験 (OSCE 形式)
授業の形式 受講上の注意	座学&実技 (実技は 実習 着用) *座学は場合により WEB 対応となる。

理学療法学科1年（未実施分）

授業科目名	見学実習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 40時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	見学実習
担当講師	見学実習指導者
実習の目的	<p>一般目標</p> <p>理学療法を理解するために臨床の現場において理学療法を見学し、業務全般の理解、関連職種との連携、社会的役割などを理解する。</p> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所リハビリテーションの業務内容や社会的役割を説明できる。 ・通所リハビリテーションにおける理学療法部門の役割を説明できる。 ・理学療法士の基本的な業務内容を説明できる。 ・関連職種との連携を見学し、その概要と重要性を説明できる。 ・社会人としてふさわしい言動や態度で行動することができる。
実習の概要	<p>実習前オリエンテーションと学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所リハビリテーションの業務内容や社会的役割を学習する。 ・通所リハビリテーションにおける理学療法部門の役割を学習する。 ・実習課題とその提出などについて理解する。 ・社会人としてふさわしい言動や態度について考える。 <p>下記内容について臨床の現場で実習指導者の理学療法を見学する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 周囲の人間（患者、スタッフ）とのコミュニケーション ② 理学療法の基本的な業務 ③ 多職種との連携 <p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出 ・実習で学んだことを共有し、学びを深める。 <p>*実習期間は5日間、実習時間は8時間(休憩は含まない)。</p>
テキスト 参考書	適宜必要文献
評価の方法	実習期間中の成績評価は各実習施設の実習指導者が実施し学校に報告する。実習前後の内容を含め、最終成績評価を学校が行う。
実習の形式 実習上の注意	規定の施設にて実習指導者の指示に従う。

理学療法学科2年

授業科目名	小児系
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	小児系	
担当講師	宍戸聖弥、橋本宜昭	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士(宍戸)・理学療法士(橋本) 》	
授業の目的	小児の発達における特性を理解したうえで、小児の疾患や障害の評価と治療ができるよう基礎知識と技術を身につける。	
授業の概要	第1-3回	脳の発達と定型発達について <到達目標> ①脳の発達や定型発達を学び、人の発達過程を理解できる。 ②各発達段階に合わせた、リハビリテーションの基礎を知る。
	第4-6回	脳性麻痺児（痙直型、AT型、失調型など）について <到達目標> ①各種脳性麻痺について理解し、理学療法士として評価を実施できる。 ②対象の脳性麻痺児に則したリハビリテーション介入ができる。
	第7-8回	発達障害（ASDやDCD、ADHD、SLDなど）について <到達目標> ①自閉スペクトラム症や知的障害の概要と基礎について理解できる。 ②発達障害児に対する理学療法介入を理解することができる。
	第9-10回	ダウン症候群とデュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）について <到達目標> ①ダウン症候群とDMDの概要と基礎を理解できる。 ②ダウン症候群とDMD各期における理学療法介入を理解することができる。
	第11-14回	小児整形疾患（整形疾患、二分脊椎など）について <到達目標> ①小児整形疾患の評価と治療について理解できる。 ②その他の小児理学療法に関する知識を深めることができる。
	第15回	定期テスト（第1回から14回で学んだ内容について）
	テキスト 参考書	<必須> ・細田多穂：小児理学療法学テキスト シンプル理学療法学シリーズ <参考> ・辛島千恵子：人間発達とライフサイクル
評価の方法	レポート課題や小テスト、定期テストの得点合計が60点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学（Web対応となる場合もある）、実技等	

理学療法学科 2年 作業療法学科 2年

授業科目名	生活環境論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生活環境論	
担当講師	藤村忠史 小林憲人 國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士(藤村・小林)、作業療法士(國近) 》	
授業の目的	<p>①高齢者や障害者を取り巻く社会の状況や支援の仕組みを理解する。</p> <p>②障害の捉え方と自立支援について理解する。</p> <p>③疾患・障害別にみた福祉住環境整備の考え方を理解する。</p>	
授業の概要	第 1～10 回 担当 藤村 忠史	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や障害者を取り巻く社会状況 ・ 障害のとらえ方と自立支援のあり方 <p><到達目標></p> <p>①医療保険制度と介護保険制度を理解し説明することができる。</p> <p>②地域包括ケアシステムと地域リハビリテーションについて理解し説明できる。</p>
	第 11-20 回 担当 國近 敏伸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方 ・ 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 <p><到達目標></p> <p>①疾患や障害の例を挙げ、それらに対する福祉用具の選定や、住環境整備のポイントを説明することができる。</p> <p>②住環境整備に伴う、関連職との連携やアセスメントの流れについて説明できる。</p>
	第 21-30 回 担当 小林 憲人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識 ・ 在宅生活における福祉用具の活用 <p><到達目標></p> <p>①生活行為別にみた代表的な福祉用具について説明できる。</p> <p>②基礎的な建築図面の読み方や、実践に必要な知識を身に付ける。</p>
	第 30 回	福祉住環境コーディネーター級 2 検定試験
テキスト 参考書	改訂版福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト改訂 6版 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級問題集 (未定) 配布資料・準備資料	
評価の方法	検定試験の結果 (60 点未満) はレポートで合格 2 級検定試験合格基準 (70 点以上) 試験期間 2022 年 7 月 22 日 (金) ～ 8 月 8 日 (月)	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワークなど Web 対応となる場合もある	

理学療法学科 1 年(未実施分)

授業科目名	体験実習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 40 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	体験実習
担当講師	各施設の実習指導者
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の介護施設にて入所者や利用者の方々とのコミュニケーションを体験することで、臨床実習での対象者との適切なコミュニケーションの向上を図る。 ・ 介護現場を体験することで、今後の理学療法におけるアプローチに役立てる。 ・ レクリエーション活動を体験し、実施する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習期間は 1 週間。 ・ 一日の実習時間は 8 時間。 ・ 実習時間は各施設の指導者に一任する。 ・ 実習指導者の指導に従って、入所者や利用者とのコミュニケーションや業務の補助を行う。 ・ 指導者からの講義によってコミュニケーションの実施方法等を学習する。 ・ 施設で実施されているプログラムに参加し、モデルプログラムを習得する。 ・ モデルプログラムを参考にしてレクリエーション活動を計画・実施し、内容を振り返って改善案を出すなど、今後の実践に繋げる。 <p>実習事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準予防策(スタンダードプレコーション) ・ リスク管理 ・ コミュニケーション技法 ・ 車椅子の駆動介助 ・ 移乗介助
テキスト 参考書	特になし。
評価の方法	実習期間中の成績評価は各実習施設の実習指導者が実施し学校に報告する。実習前後の内容を含め、最終成績評価を学校が行う。
授業の形式 受講上の注意	特記事項なし。

理学療法学科2年

授業科目名	物理療法 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	物理療法学 I
担当講師	橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>一般目標</p> <p>物理的エネルギー（熱・水・光線・電気・機械刺激等）が各種の病態に対して有効に作用する生理学的根拠に関する理解を深める。</p> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応と禁忌について説明できる。 ・物理療法の原理を含めた特性を学び、機器の取り扱いができる。 ・炎症メカニズムや組織修復メカニズムを説明できる。
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は温熱療法・寒冷療法を中心に行う ・実際の物理療法設備を用いて、処方工夫や機器の扱い注意点を体験する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、レポートの作成について 2. 炎症・温熱療法と寒冷療法 3. 水治療法と牽引療法 4. 実習1 準備 5. 実習1 実施 6. 実習2 準備（実習1 レポート提出） 7. 実習2 実施 8. 実習3 準備（実習2 レポート提出）+（実習1 フィードバック） 9. 実習3 実施 10. 実習4 準備（実習3 レポート提出）+（実習2 フィードバック） 11. 実習4 実施 12. 電磁波療法（実習4 レポート提出）+（実習3 フィードバック） 13. まとめ+（実習4 フィードバック） 13. 電気刺激療法の概要 14. 超音波療法 15. 前期まとめ
テキスト 参考書	烏野 大, 川村博文(編著)『最新理学療法学講座 物理療法学』医歯薬出版, 2021. ISBN978-4-263-26737-0 C3347
評価の方法	レポート課題、(筆記試験)
授業の形式 受講上の注意	<p>座学・実技形式 (Web での講義となる場合もある)</p> <p>実習時は身体各部を露出できる服装で参加すること。</p> <p>また物理療法学を理解するには、特に循環や神経筋生理学の知識は不可欠であるので、必ず生理学の知識を確認しながら授業に臨むよう心がけてもらいたい。</p>

理学療法学科 2年

授業科目名	理学療法演習 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	理学療法演習 I
担当講師	理学療法学科教員
実務経験	あり 関連資格 理学療法士
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法プロセスを再確認すると共に理解を深める。 ・評価実習・臨床実習で必要な評価の理解と技術の向上を目指す。 ・対象者への検査を実施する。 ・実習遂行に必要な最低限の知識の会得を目指す。 <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血圧・脈拍の測定が実施できる ・形態測定が実施できる ・ROM(上肢・下肢・体幹)が実施できる ・評価の目的を理解し、結果について解釈できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に学習した評価における検査・測定の基本的な技術を復習する。 <ol style="list-style-type: none"> ①血圧・脈拍の測定 ②形態測定 ③ROM(上肢・下肢・体幹) ③ROM(上肢・下肢・体幹) ・対象者への検査・測定を臨床での状況を想定して、より高いレベルで実施できるように技術の習熟度を高める。 ・各検査の確認の実技テストを担当教員が実施する。
テキスト 参考書	理学療法評価学 松澤正 金原出版
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト <p>※上記に記載した検査の全てにおいて合格する必要がある。</p>
授業の形式 受講上の注意	実技形式

理学療法学科 2 年

授業科目名	理学療法技術論
区分	専門分野
学期、コマ	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	理学療法技術論
担当講師	森澤 文博
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 近年増加率が多い、内部障害と理学療法の役割を理解する <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ リスク管理能力を身につける ➤ 呼吸器疾患の病態像から理学療法を結びつける ➤ 代謝・内分泌性疾患の病態像から理学療法を結びつける
授業の概要	<p>Introduction</p> <p>1-1 内部障害と理学療法士の役割</p> <p>2 呼吸器疾患の理学療法</p> <p>2-1 呼吸器について</p> <p>2-2 呼吸器疾患の病態</p> <p>2-3 検査データの見方</p> <p>2-4 呼吸器疾患の分類</p> <p>2-5 評価方法</p> <p>2-6 プログラム</p> <p>2-6-1 コンディショニング</p> <p>2-6-2 呼吸練習</p> <p>2-6-3 呼吸介助法</p> <p>2-6-4 胸郭可動域改善</p> <p>2-6-5 排痰法、その他</p> <p>2-6-6 運動療法について</p> <p>2-6-7 包括的リハビリテーション</p> <p>3 運動負荷試験</p> <p>3-1 運動時に動員されるエネルギー供給経路について</p> <p>3-2 エネルギー基質の利用からみた運動</p> <p>3-3 酸素の供給と搬送</p> <p>4 代謝・内分泌性疾患の理学療法</p> <p>4-1 糖尿病</p> <p>4-1-1 病態理解</p> <p>4-1-2 治療法</p> <p>4-1-3 合併症</p> <p>4-2 糖尿病に対する理学療法</p>
テキスト 参考書	<p>理学療法学テキスト 内部障害理学療法学：MEDICAL VIEW</p> <p>標準理学・作業療法学 生理学：医学書院</p>
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	<p>実技・座学形式</p> <p>実技の服装は実習着とする</p>